

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900094		
法人名	極東警備保障株式会社		
事業所名	グループホーム大空 Aユニット		
所在地	旭川市永山2条21丁目2番12号		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年11月24日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0172900094&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は木を基調とした明るく落ち着いた雰囲気です。1日3回の食事は全て手作りで、専任の調理人が地物を多く使用し、四季を感じる料理を提供して、好評を得ています。入浴設備も自立されている方や全介助の方でも対応出来る。器械浴の設備も備えています。日々の生活を楽しく過ごして頂けるようにレクリエーションや外出行事に積極的に取り組んでおり、職員と利用者ともに笑顔で開れる行事をたくさん実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スプリンクラーが設置され、防火対策が施されている平屋建て2ユニットのグループホームです。また、定期的に発行される「大空だより」では、新人職員の紹介や行事予定、入浴等の日々のケアサービスの実施状況や東川への外出の様子、認知症について理解を得るためのコラムの連載記事の掲載が行われています。地域の町内会や子供会と共催した「花火大会」では、近隣住民も多数参加して実施され、地元の人々との連携や実習生の受け入れでホームの持つ機能の地域への還元も行われています。また、「職員アンケート」を実施し、外部研修会参加の要望や日常のケアサービス等忌憚のない意見を運営に反映し、改善の機会に活かされています。本人と家族の絆を断ち切らないように自宅での外泊やホームに訪し易い取り組みを実践しています。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく日々生活して頂ける様「ゆっくり・いっしょに・たのしく」の理念を合言葉にその人が今「何かしてほしい」また「望んでいる事は何か」を見出す為、サインの見極めを職員全体で話し合っている。	地域の中でその人らしく暮らせるように事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼時やミーティングを通じて話し合い、理念を共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	四季折々に関わる行事の案内をしている。今年は、町内の子ども会と共同開催で花火大会を大空の駐車場で開催し、大勢の町内の方に来て頂きさらなる交流の機会が増えました。	地域の町内会や子供会と共催した「花火大会」では、近隣住民も多数参加して実施され、地元の人々との連携や実習生の受け入れでホームの持つ機能の地域への還元も行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、町内会長が運営推進会議メンバーになっているので、会議毎に認知症についてお話している。又チラシを地域に配布して、見学受け入れを広報している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム行事や火災訓練などの日に運営推進会議を開催し、外部からのご意見や感想を参考にしてより良い運営に繋がるように活用している。	運営推進会議は、定期的に行われ議事録も整備されている。また、火災避難訓練等について意見交換され、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護高齢課主催の研修へ参加して常に新しい情報を取り入れるようにしています。福祉課については、保護課の担当者職員の方と毎月の受診状況などの報告や年数回の訪問時に意見交換を行っています。	市担当者や包括支援センターとの連携の重要性を理解し、研修会参加や情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、毎月の会議で高齢者虐待、不適切ケアと、ともに職員からレポートを提出してもらい、ケース毎に対応を話し合っている。	玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束や高齢者虐待について内部研修会で管理者及び職員の認識の共有が行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員の研修参加を勧め、どんな行為が虐待になるかを毎月の会議で発表しレポートをもとに研修している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員に研修の機会を得るように勤めていきます。又内部研修などでも文章にして配布し理解を深めるように指導しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を希望される際また解約をする際御家族の方々に納得を得る為、契約書等必要事項は時間をもうけ説明しています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に苦情受けを備えている。又ご家族からのご意見や苦情にはご納得いただけるように説明し、記録として保存しています	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置している。また、重要事項説明書に苦情等の申し出先を掲載し、掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議にあわせ匿名でのアンケートを実施している。毎月の課題を提案して、広く職員の意見を参考にして業務内容などを改めたり、新しい取り組みに生かしている。	「職員アンケート」を実施し、外部研修会参加の要望や日常のケアサービス等忌憚のない意見を運営に反映し、改善の機会に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉部の全体会議があり、職員の就業環境について報告し意見を述べる機会がある。代表者と職員が直接会議する場もあり労働環境の向上に取り組んでいます。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成の為、研修を受ける機会を全職員に提供している。さらに受けてきた内容の報告書を作成し他の職員に発表するようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修の場へ参加する事で、他のホームの方々と交流し、お互いに意見交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と関わり、ゆっくりと話を聞く。状況によっては手を握るなどのスキンシップも必要と考える。その事により、信頼関係が生まれる事もあると思う。更に本人からの訴え時、口をはさまず話を聞く。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	正確なアセスメントにする為に事前調査や入所前の面談を時間をかけて行い、話易く相談し易いアプローチをして家族の思いを受け止められる様に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をしっかり受け止め、ホームの立場としてどこまで関われるか、また支援することが可能か見極め対応することが必要と考える。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員の関係が密になるように外出先を相談して決めたり、一緒に行動する機会を設けている。又利用者さんの歩んできた歴史考慮した関わりを指導している		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のなかでかけがえの無い大切な存在である意識を共有する。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々ホームの方へ訪ねてくる方、またお電話などにより、馴染みの関係を保っている方。郵便などで継続されている方もいます。本人から求めがあれば援助し関わって行きます。	町内に住む友人や知人の来訪がある。また、町内の子ども会との花火大会の共催、紅葉見物等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士での食事の座席配置や、日中は利用者全員が顔を合わせてコミュニケーションを図る為、ダイルームでレクリエーションを楽しむ様配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方には、経過などを定期的にお聞きしたりお見舞いに行くなどしている。退所後に再入所してくださった方も居る。又年賀状などのやり取りも継続して行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方でもより深く関わる事で本人の希望を引き出す努力をしています。家族からもケアプランに反映できるような意見を取り入れています。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の状況調査記録や入所前のケアマネや家族からの情報を担当職員全員で共有している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケース記録があり、それ一冊ですべての状態が把握できる様になっており、すべての職員が共有化し、個別ケアに活かしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時に家族からの要望をモニタリングで活用し、担当介護員からの情報をサービス担当者会議で収集し、新たなプラン作成やアセスメントにつなげている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングで伝えられる職員の声を個人のケース記録に記載し早番・日勤・夜勤での様子を毎日記載して介護計画に取り入れています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設で対応できる範囲で研修の受け入れを行っている。地域の方にもボランティアに来ていただけるようにお知らせしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サークル活動の発表の場であったり、ボランティアによる話し相手、町内子ども会との共同開催行事など地域の活動に参加している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望する医療機関。また、嘱託医による往診、週一回の看護師によるラウンドにより対応している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や看護師による訪問で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に連携している医療機関から看護師を派遣して頂き、利用者の体調、バイタルの確認をしている。又24時間電話で体調の変化に対応してもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院また家族と連絡を取り、常に意識すると共に早期退院に向け連携を図っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度・終末期に本人・家族の意向に出来る限り添える様医療機関と連携を図り、緊急時の対応など検討・準備している。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師との連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、電話の前に設置している。管理者が施設近所に住んで居るためすぐに対応出来ている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練に関しましては年2回通報、避難、消火器の使用を行い防火チェック表を作成し点検を行っている。 災害に関しては特別実施していない。	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、設備の定期点検も行われている。また、スプリンクラーの設置が完了している。	スプリンクラー設置による新たな課題について、さらに検討されることを期待します。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保の為に出来る事を内部研修などでも徹底するように努めている。又個人が特定できる書類を破棄するときはシュレッターで処理している。	内部研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面で自己決定できる機会を作る。買い物や外出、バイキング形式の食事など実施している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活リズムも把握し、一人ひとりに合ったペースでゆっくり・いっしょに・楽しく生活出来る様支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に以前の服装について聞いたり、入居前と変化しない様にしている。いっしょに服・化粧品を買いに行き好きな物を選んで頂いたり、行き付けの理容・美容のある方は希望の所に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助の方も多く職員とともに食事できる機会は少ないが、食事を楽しめるように炊事遠足や、屋外での焼肉など色々楽しんでいただける工夫を行っている。又後片づけなどは職員と一緒に行って下さる。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に片付けをしている。また、野外での焼肉等楽しみごとへの工夫も行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み、ミキサー、など、一人ひとりに合わせた食事形態で提供している。水分、食事とも摂取量を毎日記載して必要量を確保している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人々の口腔ケア状態が把握できる表を作成し、自力で出来ない方には毎食後にケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは最終手段であり、トイレでの排泄を維持して行く為に排泄状態が変わる時は、本人はもちろん、家族や担当職員や管理者が検討して排泄方法を決めるようにしています。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用するのではなく、自然排便を促す為に食事、水分の工夫やストレスによる便秘も視野に入れ、楽しく体を動かす機会を作るように支援をしています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に火・水・金・土という入浴日が決まっているが、皮膚疾患や本人の希望でいつでも入浴出来る体制になっている。一番風呂を好む方への配慮、その人に合わせて対応している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、機械浴の設備も整っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを把握し、その人に合った方法で日中の活動を増やして行き、自然な形で昼夜逆転を治せる様支援している。就寝時間は本人に合わせている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示内容、内服の変更は、口頭、記録により、全職員が周知出来る体制を組んでいます。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の職業を生かした役割・趣味・習慣等の把握をしている。楽しみは職員も共に楽しみ、役割を果たして頂いた時は感謝の気持ちを言葉にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は毎日散歩に出かけて居ます。中庭で食事やおやつを楽しむ事もあります。買い物やドライブなども取り組みとして実施しています。	一人ひとりの希望にそって、散歩やドライブ等戸外に出かけられるように支援している。また、野外での焼肉や花火大会参加、紅葉見物等が行われている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はお任せしており、ホームで預かっている方も買物の時は財布を持って頂き、自分で支払いが出来る様支援している。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には、その方に合った方法でお手伝いをしています。手紙や小包は、本人に必ず開封をさせていただきます。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディルームには季節にあったディスプレイを飾り、心地良い音楽が流れ、吹き抜ける天窓からは光が差し込み明るく開放感一杯の中で穏やかに過ごされています。	リビングや廊下の壁には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真等掲示され、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディルームにはソファ、食堂には食卓テーブルがあり、夏期には、中庭には椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんでいただけるよう配慮をしています。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれの生活調度品を持ち込み、住み慣れた環境になるように心掛けています。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員が入居者の身体状況、生活歴を把握し、混乱しないように気を配り、安心していただけるような声掛けをしています。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900094		
法人名	極東警備保障株式会社		
事業所名	グループホーム大空 Bユニット		
所在地	旭川市永山2条2丁目2番12号		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年11月24日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900094&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は木を基調とした明るく落ち着いた雰囲気です。1日3回の食事は全て手作りで、専任の調理人が地物を多く使用し、四季を感じる料理を提供して、好評を得ています。入浴設備も自立されている方や全介助の方でも対応出来る。器械浴の設備も備えています。日々の生活を楽しく過ごして頂けるようにレクリエーションや外出行事に積極的に取り組んでおり、職員と利用者ともに笑顔で開れる行事をたくさん実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく日々生活して頂ける様「ゆくり・いっしょに・たのしく」の理念を合言葉にその人が今「何かしてほしい」また「望んでいる事は何か」を見い出す為、サインの見極めを職員全体で話し合っている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	四季折々に関わる行事の案内をしている。今年は、町内の子ども会と共同開催で花火大会を大空の駐車場で開催し、大勢の町内の方に来て頂きさらなる交流の機会が増えました。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、町内会長が運営推進会議メンバーになっているので、会議毎に認知症についてお話している。又チラシを地域に配布して、見学受け入れを広報している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム行事や火災訓練などの日に運営推進会議を開催し、外部からのご意見や感想を参考にしてより良い運営に繋がるように活用している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護高齢課主催の研修へ参加して常に新しい情報を取り入れるようにしています。福祉課については、保護課の担当者職員の方と毎月の受診状況などの報告や年数回の訪問時に意見交換を行っています。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、毎月の会議で高齢者虐待、不適切ケアと、ともに職員からレポートを提出してもらい、ケース毎に対応を話し合っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員の研修参加を勧め、どんな行為が虐待になるかを毎月の会議で発表しレポートをもとに研修している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員に研修の機会を得るように勤めていきます。又内部研修などでも文章にして配布し理解を深めるように指導しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を希望される際また解約をする際御家族の方々に納得を得る為、契約書等必要事項は時間をもうけ説明しています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に苦情受けを備えている。又ご家族からのご意見や苦情にはご納得いただけるように説明し、記録として保存しています		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議にあわせ匿名でのアンケートを実施している。毎月の課題を提案して、広く職員の意見を参考にして業務内容などを改めたり、新しい取り組みに生かしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉部の全体会議があり、職員の就業環境について報告し意見を述べる機会がある。代表者と職員が直接会議する場もあり労働環境の向上に取り組んでいます。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成の為、研修を受ける機会を全職員に提供している。さらに受けてきた内容の報告書を作成し他の職員に発表するようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修の場へ参加する事で、他のホームの方々と交流し、お互いに意見交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と関わり、ゆっくりと話を聞く。状況によっては手を握るなどのスキンシップも必要と考える。その事により、信頼関係が生まれる事もあると思う。更に本人からの訴え時、口をはさまず話を聞く。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	正確なアセスメントにする為に事前調査や入所前の面談を時間をかけて行い、話易く相談し易いアプローチをして家族の思いを受け止められる様に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をしっかり受け止め、ホームの立場としてどこまで関わられるか、また支援することが可能か見極め対応することが必要と考える。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員の関係が密になるように外出先を相談して決めたり、一緒に行動する機会を設けている。又利用者さんの歩んできた歴史考慮した関わりを指導している		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のなかでかけがえの無い大切な存在である意識を共有する。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々ホームの方へ訪ねてくる方、またお電話などにより、馴染みの関係を保っている方。郵便などで継続されている方もいます。本人から求めがあれば援助し関わって行きます。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士での食事の座席配置や、日中は利用者全員が顔を合わせてコミュニケーションを図る為、ダイルームでレクリエーションを楽しむ様配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方には、経過などを定期的にお聞きしたりお見舞いに行くなどしている。退所後に再入所してくださった方も居る。又年賀状などのやり取りも継続して行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方でもより深く関わる事で本人の希望を引き出す努力をしています。家族からもケアプランに反映できるよう意見を取り入れています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の状況調査記録や入所前のケアマネや家族からの情報を担当職員全員で共有している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケース記録があり、それ一冊ですべての状態が把握できる様になっており、すべての職員が共有化し、個別ケアに活かしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時に家族からの要望をモニタリングで活用し、担当介護員からの情報をサービス担当者会議で収集し、新たなプラン作成やアセスメントにつなげている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングで伝えられる職員の声を個人のケース記録に記載し早番・日勤・夜勤での様子を毎日記載して介護計画に取り入れています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設で対応できる範囲で研修の受け入れを行っている。地域の方にもボランティアに来ていただけるようお知らせしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サークル活動の発表の場であったり、ボランティアによる話し相手、町内子ども会との共同開催行事など地域の活動に参加している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望する医療機関。また、囑託医による往診、週一回の看護師によるラウンドにより対処している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に連携している医療機関から看護師を派遣して頂き、利用者の体調、バイタルの確認をしている。又24時間電話で体調の変化に対応してもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院また家族と連絡を取り、常に意識すると共に早期退院に向け連携を図っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度・終末期に本人・家族の意向に出来る限り添える様医療機関と連携を図り、緊急時の対応など検討・準備している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、電話の前に設置している。管理者が施設近所に住んで居るためすぐに対応出来ている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練に関しましては年2回通報、避難、消火器の使用を行い防火チェック表を作成し点検を行っている。 災害に関しては特別実施していない。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保の為に出来る事を内部研修などでも徹底するように努めている。又個人が特定できる書類を破棄するときはシュレッターで処理している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面で自己決定できる機会を作る。買い物や外出、バイキング形式の食事など実施している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活リズムも把握し、一人ひとりに合ったペースでゆっくり・いっしょに・楽しく生活出来る様支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に以前の服装について聞いたり、入居前と変化しない様にしている。いっしょに服・化粧品を買いに行き好きな物を選んで頂いたり、行き付けの理容・美容のある方は希望の所に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助の方も多く職員とともに食事できる機会は少ないが、食事を楽しめるように炊事遠足や、屋外での焼肉など色々楽しんでいただける工夫を行っている。又後片づけなどは職員と一緒に行って下さる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み、ミキサー、など、一人ひとりに合わせた食事形態で提供している。水分、食事とも摂取量を毎日記載して必要量を確保している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人々の口腔ケア状態が把握できる表を作成し、自力で出来ない方には毎食後にケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは最終手段であり、トイレでの排泄を維持して行く為に排泄状態が変わる時は、本人はもちろん、家族や担当職員や管理者が検討して排泄方法を決めるようにしています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用するのではなく、自然排便を促す為に食事、水分の工夫やストレスによる便秘も視野に入れ、楽しく体を動かす機会を作るように支援をしています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に火・水・金・土という入浴日が決まっているが、皮膚疾患や本人の希望でいつでも入浴出来る体制になっている。一番風呂を好む方への配慮、その人に合わせて対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを把握し、その人に合った方法で日中の活動を増やして行き、自然な形で昼夜逆転を治せる様支援している。就寝時間は本人に合わせている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示内容、内服の変更は、口頭、記録により、全職員が周知出来る体制を組んでいます。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の職業を生かした役割・趣味・習慣等の把握をしている。楽しみは職員も共に楽しみ、役割を果たして頂いた時は感謝の気持ちを言葉にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は毎日散歩に出かけて居ます。中庭で食事やおやつを楽しむ事もあります。買い物やドライブなども取り組みとして実施しています。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はお任せしており、ホームで預かっている方も買物の時は財布を持って頂き、自分で支払いが出来る様支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には、その方に合った方法でお手伝いをしています。手紙や小包は、本人に必ず開封をいただきます。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディルームには季節にあったディスプレイを飾り、心地良い音楽が流れ、吹き抜けの天窓からは光が差し込み明るく開放感一杯の中で穏やかに過ごされています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディルームにはソファ、食堂には食卓テーブルがあり、夏期には、中庭には椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんでいただけるよう配慮をしています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれの生活調度品を持ち込み、住み慣れた環境になるように心掛けています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員が入居者の身体状況、生活歴を把握し、混乱しないように気を配り、安心していただけるような声掛けをしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム大空

作成日: 平成 22 年 10 月 1 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	1人ひとりに合わせたゆったりした介護を目指していますが、利用者の介護度が上がり、介助に多くの時間がかかり、仲々全ての利用者の希望に添えない場合があり、現状では1人ひとりのペースに合わせられない。	利用者さん全てのペースにあわせた生活が送れるように1日の流れをゆったりした時間で考えたい。特に外出は、希望時対応できるようにしたい。	現在、職員の人員を利用者の人数の割合で配置しているが、介助の頻度で考えて、介護員を増やし、利用者や職員の希望に添えるようにしていきたい。	1ヶ月
2	13	職員の育成の為に研修の機会を出来るだけ提供しているが、現状では色々な研修ではなく同じ内容の研修が多く、施設内で行っている研修で補っているが、職員の意識にも格差が多くあり全員のレベルの向上が課題となっている	全職員が進んでレベルアップに取り組み介護現場で活用できる研修に多くの職員が参加できる。	現在加入しているグループホーム協会以外の研修にも参加させて頂けるグループを探す。又地域包括主催の研修にもケアマネ以外の職員の出席も検討して行きたい。	12ヶ月
3	20	利用者のこれまで付き合いを大切に考えて支援しているが、現状では利用者の認知度が著明になるほどに来所される方が少なくなっている。家族さえ来た人を認識しないと思ったりする	認知症が進んでも感情は豊かに残っており家族や友人知人が訪ねると嬉しく気持ちも穏やかになる事を理解して頂き。関係継続の支援を継続して行きたい。	現在家族に定期的に配布している大空新聞を面会にきた友人知人に配布したり、普段の生活の様子を話し認知症の理解に勤める。	12ヶ月
4	35	火災訓練は年2回実施しているが、地震、水害などの災害の訓練は実施していない状況で、地震や水害などの被害が少ない地域である事も関係していると思われる。	火災以外の災害訓練と非常時の避難場所など書類にし職員全員で共有していく	年2回の火災訓練の他に地震や水害などの訓練を実施する。又同御者の訓練状況を調査し参考にして行きたい。	3ヶ月
5	14	管理者、職員は様々な研修に参加し同業者と意見交換する機会は有るが、それ以後のネットワーク作りや相互訪問に発展して行っていない。	他の施設の良い点を参考にしてサービスの向上に繋がるような交流を進めて行きたい。	系列のグループホームでの職員間の研修やネットワークによる相互訪問の機会を作っていく。	12ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。